

古代アメリカ学会 第14回東日本部会／第12回西日本部会研究懇談会のお知らせ

若手研究者による研究の紹介②：

モニュメントのはじまり — 「捨てる」と「築く」のはざまから

2022年度の第1回研究懇談会を以下の要領で開催します。ふるってご参加下さい。また非会員の方も参加できますので、関心をお持ちの方にはぜひお声をおかけ下さい。ただし、参加には事前登録が必要ですので、ご注意ください。

〔研究懇談会概要〕

今回の研究懇談会は『モニュメントのはじまり — 「捨てる」と「築く」のはざまから』と題し、最近博士論文を提出された若手研究者・荘司一步会員にその研究成果についてお話しいただきます。新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、オンライン開催となりますが、オンラインならではの利点を活かして研究発表と質疑応答・議論をわけて実施いたします。研究発表は事前録画された動画を一週間オンライン配信し(3/5～3/11)、懇談会当日(3/12)は2名のコメンテーターによるコメントと質疑応答、参加者を含めたフリートークのみに充てます。これより、発表内容の理解を深めるとともに、懇談会では従来よりもより深い議論が行われることを意図しております。様々な分野の視点から活発な議論・意見交換をしていただきたく存じます。

なお、参加には事前登録が必要です。以下のウェブサイトにて登録をお願いいたします。登録後、動画配信サイトのURLを含む詳細情報をお送りします。

参加登録サイト <https://forms.gle/DYzRjWWDDkWbL6GF9>

「モニュメントの創出をめぐる一試論：先史アンデス古期の環境変動とマウンドの変容」

荘司 一步（東京大学大気海洋研究所）

【概要】

本発表は、ペルー北海岸に位置するクルス・ベルデ遺跡を事例とし、アンデス文明史におけるモニュメントの創出過程を考察するものである。2021年度に発表者の提出した博士論文をもとにして、①モニュメントの創出過程を議論するためにはどのような視点が必要か？、②アンデス文明史における古期(5000BC-3000BC)の位置づけとは？、③廃棄行為と建設行為の関係性に対する着目はモニュメント研究に何をもたらすか？、という3つの議題を論じることが、本発表の目的となる。

クルス・ベルデ遺跡には、古期に形成されたマウンド状遺構検出されており(以下、マウンド)、2016年と2017年の発掘調査の結果、その形成過程が明らかになった。マウンドの形成過程はCV-Ia期(4200-4000BC)とCV-Ib期(4000-3800BC)に分けられており、

それは 2 つの時期の間で大きく変化する。前者において、マウンドは繰り返される廃棄行為によって食糧残滓が積み重なり形成されてきたのに対し、後者では、廃棄行為に加えて粘土床の建設行為や埋葬行為が付け加えられるようになっていった。出土した動物遺存体の分析や二枚貝のスクレクロノロジー（硬組織編年学）分析の結果、両時期の間には環境変動に伴う資源利用の明瞭な変化があったことも明らかになっている（荘司ほか 2019）。古期の環境変動を通じて資源利用が大きく変化し、マウンドの形成に関与してきた集団内の協働性や資源をめぐる他集団との関係性にも変化が生じていったことが、マウンドの変容を促したと考えられよう。

以上のような、クルス・ベルデ遺跡のマウンドをめぐって起きた人々の行為の変化を手掛かりとして、本発表では、マウンドに対する行為者集団の認識がどのように変化していったのかを考察する。その際、モニュメント研究が抱えてきた課題やモニュメンタリティの議論（cf. Thompson and Andrus 2011）とともに、廃棄行為とモニュメントの関係性についての議論（cf. McNiven 2013）を参照することで、アンデス文明史におけるモニュメントの創出過程について試論を展開する。

【引用文献】

McNiven, Ian J.

2013 Ritualized Middening Practice. *Journal of Archaeological Method and Theory*, 20: 552–587.

Thompson, Victor D. and C. Fred Andrus

2011 Evaluating Mobility, Monumentality, and Feasting at the Sapelo Island Shell Ring Complex. *American Antiquity*, 76(2): 315-344.

荘司一步, ビクトル・バスケス, テレサ・ロサーレス

2019 「クルス・ベルデ遺跡出土遺物からみたペルー北部沿岸地域における古期の動物利用と変化」『古代アメリカ』22: 101-118.

● 研究発表

〔発表動画の配信〕2022年3月5日（日）～3月11日（金）

※ 動画配信サイトの URL は参加登録後にお知らせいたします。

● 研究懇談会（オンライン開催）

〔日時〕2022年3月12日（土）13:00～15:30

- ・ 開会あいさつ 13:00～13:10
- ・ コメンテーターによるコメントおよび質疑応答① 13:10～13:40

コメンテーター：鶴見英成（東京大学）

- ・ コメンテーターによるコメントおよび質疑応答② 13:40～14:10

 コメンテーター：若林邦彦（同志社大学）

- ・ 休憩 14:10～14:20
- ・ フリートーク 14:20～15:30

〔主な議題〕

- ① モニュメントの創出過程を議論するためには、どのような視点が必要か？
- ② アンデス文明史における古期の位置づけとは？
- ③ 廃棄行為と建設行為の関係性への着目はモニュメント研究に何をもたらすか？

〔参加登録サイト〕 <https://forms.gle/DYzRjWWDDkWbL6GF9>

〔主催〕：古代アメリカ学会

〔連絡先〕：東日本部会研究懇談会世話人・松本 剛 (gocito@human.kj.yamagata-u.ac.jp)

 古代アメリカ学会事務局 (info@americantigua.com)